

平成 28 年度専攻科食物栄養専攻自己点検・評価報告書

	目 次	頁
自己点検・評価メンバー	2
専攻科 食物栄養専攻の運営	2
I 教育	2
1 教育課程	2
2 教員組織	3
3 オムニバス授業	4
4 臨地実習	5
5 学位取得	5
(1)特別研究		
(2)学位授与審査		
6 管理栄養士国家試験対策	6
7 教育課程懇談会	6
II 学生支援	7
1 学生指導	7
2 進路指導	7
3 資料（修了時アンケート）	8
III 地域貢献	9
1 研究・社会的活動・所属関連団体研修	9
2 公開特別講演会	10
3 公開講座	10
IV 入学者確保	11
1 学生募集	11
2 入学試験	12
3 広報	13
V マネジメント体制	15
1 自己点検	15
2 FD/S D活動	16
3 資源の有効利用	16

自己点検・評価メンバー

自己点検・評価項目	メンバー
概要	
専攻科食物栄養専攻の運営	田淵 英一 富岡 徹久 深井 康子
Ⅰ 教育	堀田 裕史 竹内 弘幸
Ⅱ 学生支援	稗苗 智恵子 山岸 博美 高木 尚紘
Ⅲ 地域貢献	大森 聡 角田 香澄 稲場 暁子
Ⅳ 入学者確保	廣田 恵巳 宮田 佳奈
Ⅴ マネジメント体制	

専攻科 食物栄養専攻の運営

I 教育

1 教育課程

【実績】

1) 平成 28 年度のカリキュラム改訂

平成 27 年度は「小児発育特論」を「発達心理学特論」に名称変更し、平成 27 年度入学生から適用し、2 年次配置科目であるので平成 28 年度から開講した。また平成 29 年度から栄養士総合演習Ⅲを新たに設けた。

2) 学士（栄養学）希望者取得状況

平成 29 年 3 月修了生 16 名のうち、（独）大学改革支援・学位授与機構から 14 名が学士（栄養学）を受け、残り 2 名は平成 29 年 4 月期再申請手続きをとった。直近 2 年間続いた全員合格を続けることはできなかった。ここ数年の傾向として実験系の研究に比べて調査系の研究において不合格となるものが増えている。

3) 平成 23 年度からの開講時期早期化と管理栄養士国家試験高い合格率

平成 28 年 3 月修了生は 5 月の管理栄養士国家試験合格発表で受験者 18 名中 14 名が合格し、合格率は 77.8%であり、合格率アップのための取り組みが求められる。定期試験、管理栄養士模擬試験において成績が下位だった学生に対する個別指導が求められる。

4) 学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針

専攻科修了の方針、教育課程編成・実施の方針ともとも再検討はしたものの、特に細部の字句の表現以外に変更の意見はなかった。専攻科の授業科目コードの採番と科目分類方式は、4 年制栄養士養成課程として厚生労働省届け済み教育課程を基本としている。今後の科目コード等を再検討する際には、4 年制栄養士養成課程の教育課程との関係の検討も必要である。

5) 授業回数の 15 回完全実施

平成 28 年度では、平成 26 年度から実施の食物栄養学科にあわせ、全科目授業回数半期 15

回の完全実施を行った。

6) Web シラバスとその付加機能

平成 26 年度から印刷物によるシラバス配布は廃止し Web シラバスのみになった。また Web シラバス付加機能が充実してきた。学生には、シラバスは紙媒体ではなく Web で見るもの、という意識が定着してきた。

【課題・行動計画】

1) 管理栄養士国家試験受験体制の基礎固め

平成 29 年度管理栄養士国家試験より 3 月初旬試験、3 月下旬合格発表となり合否までの期間が短縮される。このため申込み時に受験資格取得見込みでは受験できなくなる。平成 28 年度入学生から、実務経験 1 年後入学した専攻科生は、修了年度の翌年度に受験可能で修了から約 1 年空くため、受験体制を変える必要がある。

① 在学中は、1 年次から受験意欲を高め、修了時まで合格ラインに達することを目標とする。授業では試験勉強に資する内容を増やし、学生は自助努力を促す雰囲気作りをする。前期の管理栄養士国家試験対策講座を学則改正により授業科目とすることを検討する。

② 修了後、無料で研究生として学校施設を利用して勉学できるよう規程を改正し、また就職にあたっては勉学を最優先するよう学生に働きかけ。専攻科としても就職希望者には勉学しやすいところを紹介できるように努力する必要がある。しかし卒業後の進路についてのアンケート調査の結果、就職を希望する学生もおり、個別の対応が必要である。

2) 授業時間外の学習時間の向上

専攻科は講義科目が多く、文部科学省の基準どおりの授業時間外の学習時間確保には、体系的な方法をとる必要があると認識している。そのための施策は平成 30 年度に向けて、じっくり対応するべきであろう。

3) アクティブ・ラーニング授業比率向上

同様にアクティブ・ラーニング授業比率も講義が多く、平成 30 年度に向けて、施策はじっくり対応するべきであろう。アクティブ・ラーニングを促す情報環境については、栄養計算ソフトの活用できる環境づくりを目指す。

4) 地域関係の授業・研究の維持・充実

特別研究で地域関連研究は 1 件である。他にも地域を対象とする調査・研究も検討されており、今後も地域関係の授業・研究の維持・充実が望まれる。

5) 平成 29 年度の専攻科の認定に向けての準備

専攻科は平成 17 年度に(独)大学改革支援・学位授与機構の課程認定を受け、平成 22 年度に審査を受けたが、その次は 7 年後の平成 29 年度に審査を受けなければならない。平成 29 年 5 月学位授与機構へ書類を提出し、平成 30 年 2 月に適格認定が行われる。そのため平成 29 年度に向けて事前準備を開始している。

2 教員組織

【実績】

平成 28 年度は専任教員が 1 名増加し 9 名で「特別研究」を担当した。専攻科は開設以来

12年目を迎え、平成22年度に原則食物栄養学科教員すべてが専攻科の授業と特別研究を担当するようになって以来、全体として教員組織は充実している。ただし食物栄養学科及びその他の授業の担当らより、やや負担が過重と思われる担当者も存在する。

【課題・行動計画】

平成28年度末定年退職する教員1名の補充に新任教員1名が平成29年度採用予定である。なお専攻科には70才以上非常勤講師が4名いるため、教員組織の若返りが期待される。

3 オムニバス授業

【実績】

平成28年度に実施されたオムニバス授業は以下の通りである。

科目名	所属先・講師名	開催時期又は回数／要 旨	学外参加者
公衆栄養学 特論Ⅰ	桑守豊美名誉教授	11回	2名
	由田克士大阪市立大学教授	4回 6月20日(土)1～4限【公開授業】 「日本人の食事摂取基準 2015年版」を 基に現場栄養士に必須の「摂取基準の活 用」、「国民健康・栄養調査」、「食生 活改善の目標」、「健康日本21」等の解 説。	
公衆栄養学 特論Ⅱ	桑守豊美名誉教授	12回	
	稗苗智恵子准教授	3回	
	益見厚子青森大学教授	2回	
保健衛生学 特論Ⅱ	石塚盈代名誉教授	9回	
	木村郁子講師	6回	
臨床栄養学 特論Ⅱ	小野章史川崎医療福祉大学 教授	3回 6月25日1～3限 最近特に(管理)栄養士に必須の知識とな っている臨床栄養学を分かり易く講義され た。	
	稗苗智恵子准教授	12回	
栄養士総合 特論Ⅰ	石塚盈代名誉教授	1回	
	専任教員	13回及び国家試験模擬試験2回	
栄養学特論Ⅲ	宮本嘉明准教授	5回	
	酒井秀紀富山大学教授	3回	
	藤秀人富山大学准教授	4回	
	大森聡講師	3回	

【課題・行動計画】

公開授業で学外からの参加者が少ない点が改善されておらず、今後とも改善策検討の必要がある。大阪市立大学教授由田克士先生の授業が公開授業化されたが、全体としては減少したままである。

4 臨地実習

【実績】

(1) 公衆栄養学特論Ⅲ

平成28年度では、専攻科2年生16名が富山県内の厚生センターまたは保健所にて臨地実習（公衆栄養学特論Ⅲ、1単位）を平成28年8月20日（木）～9月18日（金）に5日間行った。

(2) 臨床栄養学特論Ⅳ

専攻科1年生15名が県内総合病院（1施設2～3名）で臨地実習（臨床栄養学特論Ⅳ、2単位）を平成29年2月6日（月）～3月9日（水）に10日間行った。

(3) 事前、事後意見交換会及び報告会の実施

どちらの実習においても、意見交換会を実施し、意思の疎通をはかっている。参加者も年々増えて協力機関との連携がスムーズになってきており、よい方向に向かっていると思われる。現場での実習は、学生たちにとって一生のうちでも数少ない貴重な体験となり報告会でその成果を伝えている。改めて関係者の皆様の協力を厚くお礼申しあげたい。

【課題・行動計画】

臨地実習報告会では、富山県健康課や県内各厚生センター等の実習指導者に参加していただいた。都合により参加いただけなかった実習先には報告会資料を送付している。意見交換会では実習指導者の皆様から積極的な忌憚のない意見をいただく機会でもあり、今後も継続し協力を仰ぎたいと考えている。

5 学位取得

(1) 特別研究

【実績】

専攻科1年次には特別研究中間発表会を10月に実施して、特別研究の研究計画や実施状況を研究グループごとに発表した。また、専攻科2年次には全ての学生が国内の栄養・調理系学会で発表し（本自己点検報告書「Ⅲ. 地域貢献 1. 研究・社会的活動・所属関連団体研修（1）研究「所属学会・研究会・研究発表等」」12～15ページを参照）、特別研究発表会を12月に実施した。

【課題・行動計画】

特別研究発表会は2会場で同時進行するので、教員はどちらかの会場に分かれて発表を聞くことになる。そのため、全ての発表を聞くことができない。また、時間的制約のため発表に対する質問もすることができない等の課題がある。平成29年度は複数回の発表日を設定し、教員が全ての発表を聞くことができるようにし、さらに質問の時間設定する。

(2) 学位授与審査

【実績】

専攻科 2 年 16 名全員が、学士取得のため学位授与審査の申請を行った。4 月のオリエンテーション期間中 3 日間をかけて、単位修得状況申告書の作成方法を説明し、各自申告書を作成し、専用診断ソフトにかけて単位修得状況申告書の内容を検証した。7 月上旬には、学位授与申請書や住民票など、その他に必要な書類の作成等について説明し、9 月中旬に学習成果以外の書類についての準備を終えた。9 月末までに学習成果（レポート）を完成させ、申請書を郵送した（10 月期申請）。学習成果の定着を確認するための試験が、平成 28 年 12 月 11 日（日）に実施された。平成 27 年 11 月 11 日に特別研究発表会を実施し、試験対策のため発表を聞いた教員および専攻科生が想定質問を作成した。審査の結果 14 名が合格した。

【課題・行動計画】

- a) 残念ながら 2 名の不合格者がでた。指導教員はもちろんだが、研究開始の早い段階で研究方法が適切であるかなどを確認した方が望ましいように思う。また、不合格の 2 名に関しては指導教員を中心に国家試験受験後から対策をとり、4 月期の予定である。
- b) 専攻科は平成 29 年度に学位授与機構の「教育の実施状況等に関する審査」を 1 年かけてうけるが、多発することが予想される事務処理の影響を受けず申請処理を確実に行う必要がある。

6 管理栄養士国家試験対策

【実績】

- 1) 平成 28 年 3 月に実施された第 30 回管理栄養士国家試験には、専攻科を修了した 18 名全員が受験し、14 名が合格した（合格率 78%）。
- 2) 平成 29 年 3 月に実施された第 31 回管理栄養士国家試験には、修了生 16 名全員が受験した（合格発表平成 29 年 5 月 9 日）。
- 3) 平成 28 年 7 月 1 日（金）には専攻科 1 年生を対象に、11 月 4 日（金）・5 日（土）には専攻科 2 年を対象に、川崎医療福祉大学の小野章史教授を講師に招き、特訓講座を開講した。

【課題・行動計画】

第 30 回管理栄養士国家試験の学内合格率が、全国の管理栄養士養成課程（新卒）の合格率 85% を大きく下回った。例年、全国の管理栄養士養成課程（新卒）の合格率とほぼ同程度の合格率を維持していたため元の水準に戻す対策が必要である。

7 教育課程懇談会

【実績】

実施日：平成 29 年 3 月 7 日（火）10：30～11：30

場所：食物栄養学科会議室 F 314

参加者：専攻科食物栄養専攻 教職員 14 名

懇談内容：1. この 1 年を振り返って

2. 専攻科入学生への教育方針などについて

【課題・行動計画】

- 1) 管理栄養士国家試験早期化により、専攻科生は実質 6 年間教育を受けることになる。この新制度での教育体制が始まっており、次年度より専攻科修了生が研究生として通学することとなる。研究生への対策で、まだ解決していない問題（教室の確保、教育体制など）がある。
- 2) 専攻科再審査が次年度（平成 29 年度）実施される。今回は非常勤講師を含む全教員が審査対象となるため、審査認定に向けて各教員が努力しなければならない。
- 3) アクティブ・ラーニングを多くの授業に取り入れたい。
- 4) 調理・献立作成能力といった実務能力に問題のある学生が少数いる。
- 5) 臨地実習で積極性が足りない学生がいる。

II 学生支援

1 学生指導

【実績】

(1) 休学・退学等の状況

1・2 年生ともに休学および退学者はいなかった。

(2) 体験研修

目的： 早期に最先端の栄養士業務や関連施設を見学し、専攻科での勉学に役立てるとともに、栄養士または管理栄養士としての将来像を描くための参考とする。

対象： 専攻科 1 年生 15 名 教員 1 名 参加

日時： 平成 27 年 9 月 15 日（木）～16 日（金） 1 泊 2 日

研修場所：

① 味の素冷凍食品工場・研究所

② 独立行政法人 国立健康・栄養研究所施設見学

(3) 大学祭への参加および保護者懇談会

今年度は、大学祭の学科企画として、専攻科 1 年生の特別研究中間発表会（平成 28 年 10 月 22 日（土））を実施。22 日（土）に保護者懇談会の時間を設けた。

【課題・行動計画】

大学祭では 1 年生の学習成果発表会行ったが専攻科生の研究活動を内外に知らせるチャンスでもあることから学習成果発表会への参加者数が増えるよう工夫が必要と思われる。

2 進路指導

【実績】

本学は担任制を導入していることから、進路指導もクラス担任が中心となり実施しているが、同時に就職担当者を設置しており、2 者が中心となって就職・進路指導を行っている。学生は毎年、栄養士関連施設へ全員が就職している（就職率 100%）。平成 28 年度修了生も同様、

就職を希望した学生 16 名のうち、12 名（75.0%）が管理栄養士、4 名（25.0%）が栄養士として就職した。

【課題・行動計画】

今年度は富山県と厚生連で管理栄養士各 3 名募集がありそれぞれ 1 名合格した。また、かみいち総合病院 1 名合格した。しかしその後、管理栄養士の募集が少なく、国家試験間際まで就職活動が続いた。早期からの活動を促す必要がある。

3 資料（修了時アンケート）

【実績】

(1) 平成 28 年度 修了時アンケート集計結果

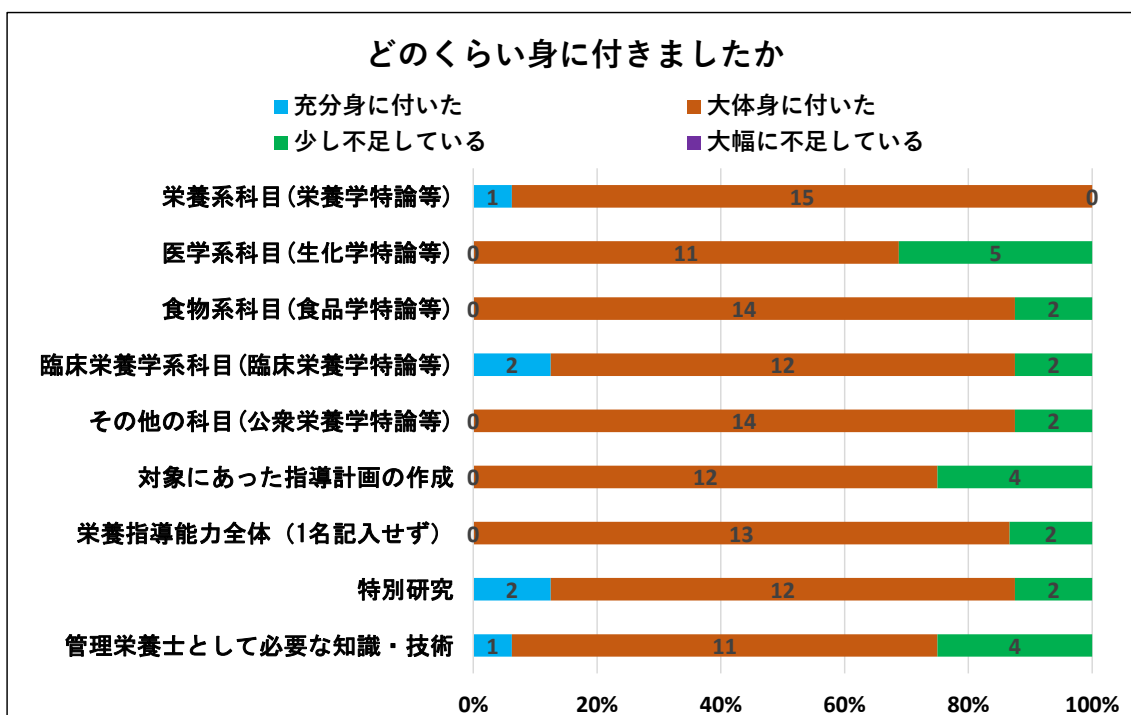
富山短期大学（抜粋）平成 28 年 3 月実施 回答者数 16 名中 16 名（100%回収率）

【課題・行動計画】

専攻に不足しているものとして、実践的な内容が少ないとの回答が 2 名あったが、このような回答がなくなるよう努力をする必要がある。

1 専攻科食物栄養専攻に入学して良かったとおもいますか。

1 大変良かった	2 良かった	3 どちらともいえない	4 あまり良くなかった	5 良くなかった	計
1	14	1	0	0	16



3 専攻科に期待することは何かありますか

4 年制大学にするべきだ (3名)

学位取得 (1名)

4 専攻科に不足していることはありますか

実践的な授業がすくない (2名)

非常勤講師の授業でためにならない授業が一つあった (1名)

III 地域貢献

1 研究・社会的活動・所属関連団体研修

【実績】

(1) 研究

多くの教員が、富山短期大学紀要へ投稿を行っていた。また、執筆等についても積極的に行っている教員が多くいた。日本栄養改善学会や日本調理学会を中心に、学会発表を行った。

平成 28 年度科学研究費助成授業基盤研究が 1 名、一般財団法人旗影会助成金が 1 名、富山第一銀行奨学財団研究助成金 3 名、大学コンソーシアム富山 1 名など、多数の外部研究助成を受けて研究活動を行った。また、学内助成金である学長裁量経費について 4 名が獲得した。

(2) 社会的活動

各教員は、富山県内の地域を中心に、多数の講演・講義・シンポジウムを行った。また、多くの行政や学会等の役員を務めているもいた。

(3) 所属関連団体研修

所属関連団体の研修として、富山県栄養士会、富山県栄養士会総会、生涯学習研修に参加した。

【課題・行動計画】

大半の教員が、研究を精力的に行っており成果を論文や学会に発表している。その一方、一部の教員については、自己の専門分野に関する研究活動が十分に活発であるとは言い難いので、教員全員が積極的に行い、研究業績を積み上げていく必要がある。

地域を中心に数多くの講演等を行っており、地域貢献という関連からは望ましい状況であるといえるが、教員の負担にならないよう注意していくことが必要である。

2 公開特別講演会

【実績】

今年度初めて、食物栄養学科と専攻科の特別講演会を合併して開催した。講演会の演者は、栄養士・管理栄養士に必要とされる専門的な内容を様々な視点からの講演内容となった。

公開特別講演会 平成 28 年 10 月 1 日 (土) 13:00~16:00 富山短期大学

演題	講師名	参加者
「女子栄養大学 栄養クリニックの実際」	蒲池 桂子 先生	学科 173
	女子栄養大学 栄養クリニック教授	専攻科 24 教職員 14 一般県民 7
目からうるこの介護予防	精田 紀代美 先生	報道関係 1
	歯科衛生士事務所 ピュアとやま代表	合計 219名

【課題・行動計画】

公開講座ということで、学科、専攻科学生のみならず、地域住民等一般からの参加を増員するため、生涯学習センターと連携を図りながら、行っていく。また、最新の栄養学等の情報を発信していく担い手としての大学の役割も、地域等に PR していく。

3 公開講座

【実績】

専攻科教員が担当した公開講座の実施日時や受講者数は、次表のとおりである。

講座名	実施日時	講師	座内容	受講者数
富山短期大学付属 みどり野幼稚園	6/25 (土) 9:30～11:30	稗苗智恵子准教授	おやつづくり	52名
滑川市福寿大学	8/12 (金) 13:30～14:50	樋口康彦講師	老年期の心理 ー豊かな老後をめざしてー	55名
滑川市福寿大学	9/9 (金) 13:30～14:50	山岸博美講師	のぼそう！健康寿命 ～ちょっとした食事 の工夫あれこれ～	67名
富山国際学園福祉 会にながわ保育園	10/15 (土) 9:30～11:00	大森聡講師	親子で楽しむおやつ 作り	65名
富山短期大学県民 カレッジ連携講座 「大学で学ぼう！」	11/26 (土) 9:30～12:00	深井康子教授	富山の正月～伝統の おせち料理実習～	30名

【課題・行動計画】

本学が、地域に密着して県内活動拠点として貢献していくことが今後益々求められている。

IV 入学者確保

1 学生募集

【実績】

平成29年度入学試験では、定員15名の入学定員数を確保したが、入学直前に1名辞退者がでたため、実際の入学者は14名となり、目標を達成できなかった。

過去3年間の入試区分ごとの募集人員、受験者、入学者の数を表1に示した。第1次募集では、定員(13名)より2名多い15名の受験者があり、全員が本学卒業生(食物栄養学科)であった。また、第2次および第3次募集では受験者はなかった。

過去3年の受験者数/募集定員数は、1.0～1.5倍の間で推移している。

表1 平成27年～29年度入試の受験・合格・入学者状況()は男性

入試 区分	募集人員			受験者			合格者			入学者		
	H27	H28	H29	H27	H28	H29	H27	H28	H29	H27	H28	H29
第1次	13	13	14	17	15 (1)	15	16	15 (1)	15	16	15 (1)	14 (1)
第2次	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第3次	1	1		0	0		0	0		0	0	
計	15	15	15	17	15 (1)	15	16	15 (1)	15	16	15 (1)	14 (1)

【課題・行動計画】

- 1) 平成 25～29 年度入試の受験者数推移を表 2 に示した。過去には、定員数が充足しなかった年度（平成 22・23 年度など）があったが、平成 24 年度からは、順調に定員数が充足できている。その要因として、専攻科の PR を在學生に機会があるごとに説明したり、オープンキャンパス、進学説明会、高校訪問時などに、高校生に対して専攻科の説明を丁寧にしてきたことが定員確保に繋がっていると考えられる。
- 2) 平成 28 年度専攻科入學生(全員が実務経験 1 年以上有)より、管理栄養士国家試験の早期化による受験資格期間満了が延期されるために国家試験受験が 1 年延長する。管栄養士養成施設（4 年制大学）に比べて実質的に学修期間が 2 年間増えるため、今後、専攻科受験者数が減る懸念がある。現在、その対策として、1 年間の栄養士実務経験に加えて、専攻科修了後に「研究生」として、最長 2 年間無償で他学科を含む富山短期大学内や国際大学の授業が聴講できたり、国家試験対策講座が受講できるように対策を立てている。対象となる在學生や高校生に対して具体的にかつ丁寧に説明していかないといけない。
- 3) 特別研究では、1 年半かけて指導教員のもとで研究を実施して研究論文(レポート)を仕上げていく。そのため、入學生が増えると、教員一人当たりの指導學生数が増えて指導教員の負担が大きくなっているという問題がある。専攻科教員は食物栄養学科教員を兼務していることや、特別研究を担当していない教員がいることもあり、今後、教育の質を維持しながら指導するためには、個人および学科単位での創意工夫や、特別研究を担当できる教員の育成が必要である。

表 2 平成 25 年～29 年の入試受験者数推移 () は男性

入試区分	H25 年	H26 年	H27 年	H28 年	H29 年
第 1 次	17	19	17	15 (1)	15 (1)
第 2 次	2	3	未実施	未実施	未実施
第 3 次	1	1	未実施	未実施	
計	20	23	17	15 (1)	15 (1)

2 入学試験

【実績】

平成 28 年度入学試験では、第 1 次受験者は 15 名で、第 2 次受験者はいなかった。ここ数年、食物栄養学科生への指導もあり、専攻科を受験する意思のある学生の多くは、第 1 次入学試験を受験している。

平成 28 年度の入試の日程を表 3 に示した。選考方法は、書類審査 70 点（成績証明書、志望理由書）、口頭試問 20 点、面接 10 点を加えて計 100 点満点とした。

表 3 平成 28 年度の入試日程

日程	出願期間	選考日	合格発表日
第 1 次	平成 28 年 8 月 29 日(月) ～ 9 月 7 日(水)	平成 28 年 9 月 13 日(火)	平成 28 年 9 月 16 日(金)
第 2 次	平成 29 年 1 月 5 日(木) ～ 1 月 24 日(火)	平成 29 年 1 月 29 日(日)	平成 29 年 2 月 4 日(土)

【課題・行動計画】

- 1)平成 28 年度入学試験では、1 次の募集人員 13 名に対し 15 名が出願して 15 名が合格した。定員順守の観点から各入試区分における合格者数の調整が必要である。
- 2)平成 30 年度管理栄養士国家試験受験の時期が変更されることに伴い、専攻科修了後約 1 年を経過しての受験となることから、食物栄養学科成績上位者の専攻科進学が減少することが予想される。この対策として、研究生制度を充実させることとあわせて「栄養学の学位」取得により四年制の大学と同じ資格となること等の理解を深めていただき、専攻科への進学が学生にとって有意義で魅力的なものにする必要がある。

3 広報

専攻科希望者のほとんど（平成 27・28 年度入学生は、それぞれ 15 名中 14 名、15 名中 15 名）が本学食物栄養学科卒業生である。そのため、高校生を対象とした広報では、富山県内の高校訪問を実施した際に本学には専攻科食物栄養専攻があり、管理栄養士を養成する科があることを周知することを行っている。そして主に、本学食物栄養学科入学者に対し、向学心の強い仲間たちと 2 年間勉強だけに専念できる点など専攻科の長所をアピールし、志願者を募っている。また、本学食物栄養学科在学時の早い段階で専攻科進学を学生に意識してもらうことを目指している。ここ数年、こういった明確な広報戦略が漸く功を奏し、管理栄養士取得希望者が着実に増えてきている。今後は、向学心の高い学生をより多く専攻科へ導くかが課題と思われる。そのためには、管理栄養士国家試験の合格率を維持・上昇させることが肝要である。

【実績】

専攻科入学希望者は本学の卒業生が主である。従って、本学関係者に限定しない一般の高校生対象とする専攻科に関する広報は、直接専攻科志願者を募るものではなく、専攻科があることによる学科への進学意欲の向上と、短大在学時の早い段階での専攻科進学を意識してもらうことにある。

1) 本学訪問、進学相談会、出張授業など

オープンキャンパス、高校関係者の本学訪問時の学科紹介兼ガイド、進学相談会、高校での校内説明会、高校での模擬授業等を実施した。詳細については次表に記載した。

進学相談会

	月日	曜日	場所	担当教員
1	7月5日	火	ウイングウイング高岡	富岡
2	9月9日	金	シック	大森
3	10月22日	土	大学祭	田淵
4	10月22日	土	大学祭	山岸
5	10月22日	土	大学祭	高木
6	12月8日	木	ウイングウイング高岡	大森

高校関係者本学訪問

	月日	曜日	会場	担当教員
1	5月26日	木	社会人	稗苗
2	6月27日	月	南砺福野南砺福光高校	大森
3	7月13日	水	富山いずみ高校	竹内
4	7月13日	水	富山北部高校	稗苗
5	7月13日	水	志貴野高校	大森
6	7月19日	火	富山北部高校	大森

高校での校内説明会

	月日	曜日	高校名	担当教員
1	4月19日	火	氷見高校	大森
2	5月6日	金	サンルート魚津	稗苗
3	5月27日	金	雄山高校	高木
4	6月13日	月	鵬高校	稗苗
5	6月15日	水	高岡龍谷高校	樋口
6	6月16日	木	高岡第一高校	深井
7	7月8日	金	高岡龍谷高校	稗苗
8	7月8日	金	龍谷富山高校	樋口
9	9月15日	木	志貴野高校	富岡
10	9月21日	水	小杉高校	竹内
11	10月8日	土	能登高校	竹内
12	10月19日	水	高岡第一高校	稗苗
13	10月28日	金	富山西高校	高木
14	11月1日	火	高岡広陵高校	樋口
15	12月8日	木	泊高校	樋口
16	12月15日	木	富山商業高校	田淵
17	12月15日	木	入善高校	稗苗
18	3月10日	金	高岡龍谷高校	角田

高校での模擬授業

	月日	曜日	会場	担当教員
1	7月6日	水	滑川高校	田淵
2	7月8日	金	石動高校	山岸
3	10月7日	金	小杉高校	田淵
4	12月7日	木	水橋高校	高木
5	3月10日	金	龍谷富山高校	山岸
6	3月28日	火	サンポウ F204	田淵

2) ホームページ・ブログ

専攻科食物栄養専攻のブログは、4月0件、5月1件、6月1件、7月1件、8月0件、9月0件、10月1件、11月4件、12月1件、1月0件、2月0件、3月0件（平成29年3月31日現在）あった。

3) その他

知っとく情報では専攻科食物栄養専攻関係の記事を学科と共同で掲載した。

【課題・行動計画】

1) ブログ

専攻科のブログ記事件数は食物栄養学科と比較すると少ない、今年度は9件のアップとなっている。しかし前年度は3件のアップにとどまっていたから、若干増加していると言える。食物栄養学科と同じ教員が専攻科を担当していることから、コンスタントに両方に記事を挙げていくことは非常に難しいが、今後、専攻科のブログ記事件数を増加させるために、特別研究の内容紹介や、専攻科の授業紹介を積極的に行うことで問題を解決できると考えられる。次年度以降も全教員に協力を要請し、ブログをアップしていく必要がある。

V マネジメント体制

1 自己点検

【実績】

専攻科食物栄養専攻の教職員は、食物栄養学科教職員の兼務で成り立っている。そのため、教職員一人一人が、専攻科食物栄養専攻および食物栄養学科のデプロマポリシーに沿って、2学科の運営にあたっている。

学科運営では、前期20回、後期21回の計41回の科内会議を開催した(食物栄養学科共同開催)。また、アクションプランに基づき自己点検を行い、アクションプランの点検表を作成した。年度始めには、各教員が個人年間計画・評価票を作成し、その内容について専攻科長が点検した。年度末には、個人年間計画・評価票に基づき、業務評価を行った。シラバスについては、専攻科長および教員委員が、記載事項について点検・修正依頼を実施した。

【課題・行動計画】

前述のとおり、専攻科食物栄養専攻の教職員は、食物栄養学科教職員を兼務しており、多忙である。しかしその中でも、研究を行う意欲を持っている教員がほとんどであり、この雰囲気継続していきたい。また、教員によって授業持ちコマ数・時間数に差があり、授業時間に余裕のある教員には、時間を要する学科内委員を受け持ってもらうなどして対応しているが、規定もないため、毎年ながら人材配置に苦慮している。加えて、このところ毎年のようにベテラン教員が定年退職しており、新規教員の採用、新人教員の教育、教職員の啓蒙などを人員に余裕がない中で行うことの難しさに局面している。

2 FD/S D活動

【実績】

近年、大学主催のFD/S D研修会の機会が増え、本科の教職員も積極的に参加して教育・研究に対する自己啓発を行っている。

【課題・行動計画】

現代では、少子高齢化社会による全国の大学数減少が必須であることや、幼稚園から大学までの連携教育など、教育界全体の大きな動きがあり、本学でも10年後を見据えた教育改革を実施していかなければならない。

3 資源の有効利用

【実績】

人材:今年度末で退職する教員が1名、次年度4月より新たに採用される教員が1名いるため、学科内の業務分担については見直しを図った。また、退職する教員は、特任教員として再雇用される予定である。

設備・備品:次年度の教育・研究に支障ができないよう、老朽化した機器の予算申請を行った。

【課題・行動計画】

今後も定年により退職予定の教員が控えているので、若手教員の早急な育成が必要である。